

神奈川県で見つかったヒナコウモリの冬眠集団について

山口喜盛・曾根正人・山口尚子・渡辺直子

Yoshimori Yamaguchi, Masato Sone, Naoko Yamaguchi and Naoko Watanabe:

Notes on Hibernating Colonies of *Vespertilio superans* Found in Kanagawa Prefecture

はじめに

コウモリ類は、樹洞や洞穴の中、家屋やコンクリート建造物の隙間などを昼間のねぐらとし、出産哺育や冬眠の場としても利用するが、洞穴性のコウモリ類を除けば、ほとんどの種がどこで、どんなところを利用しているのか、よくわかっていない。ヒナコウモリもそのひとつである。

ヒナコウモリ *Vespertilio superans* はアジア東部に分布するコウモリで、日本では北海道から九州にかけて記録されているが(阿部ほか, 1994), 樹洞のある大木の消失にともなって個体数が激減していると考えられている(前田, 2002)。そのため、環境省のレッドデータブックでは絶滅危惧Ⅱ類に位置づけられている(環境省, 2002)。

ヒナコウモリのねぐらは本来は樹洞と考えられているが(前田, 2002), 人工物や岩の隙間を利用する例も知られている。東北地方や北海道南部では橋桁や建築物の隙間などで、福井県や福岡県では海蝕洞などで数百から数千個体の繁殖集団が見つかった(向山, 1996; 福井, 2001)。一方、冬眠場所については不明なことが多く、国内におけるヒナコウモリの冬眠集団はわずかしか見つからない。岩手県天間館神社の建物内、埼玉県秩父地方の岩の隙間、京都市鞍馬寺の建物内(向山, 2002), 神奈川県山北町の丹沢湖畔の建物内(山口, 2000)などで、

数個体から数十個体の冬眠集団が知られている程度である。

筆者らは今回、神奈川県において、山北町以外で新たに3か所のヒナコウモリの冬眠集団を確認することができたので、ここに報告する。

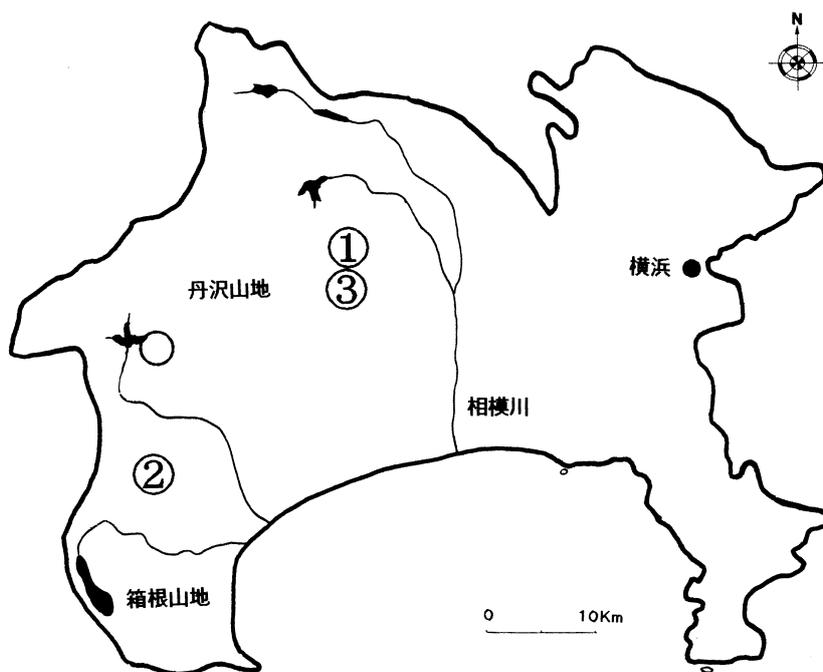
なお、コウモリが飛翔時に発する高い音を聞き取るために、超音波を人の耳に聞こえるように変換するバットディテクター(BAT DETECTOR, MINI-3型, Ultra Sound Advice社)を使用し、種を確認するために環境省より許可を得て捕獲した(環境省鳥獣捕獲許可証第5-142号)。

新たに見つかった冬眠集団

冬眠集団を新たに発見したのは、清川村の公共施設、南足柄市の大雄山最乗寺、伊勢原市の日向薬師の3か所であった(図1)。

①清川村の公共施設

2004年4月15日の18:20頃、建物の最上部の隙間から約15個体のコウモリが出巢した。4月18日の18:30頃にも同位置から約20個体の出巢を目撃した。4月20日に入入り口を捕虫網で覆って2個体の雌(体重13.7g, 前腕長4.66cm; 体重14.3g, 前腕長4.62cm)を捕獲し、これ



①清川村 ②最乗寺 ③日向薬師 ○丹沢湖畔

図1. 神奈川県で見つかったヒナコウモリの冬眠集団。



図2. 清川村の建物で捕獲されたヒナコウモリ.



図3. 清川村の建物と冬眠場所.

らがヒナコウモリであることを確かめた(図2)。出巢時に発する声はバットディテクターによると20kHz前後で「ピッ ピッ ピッ・・・」と聞き取れ、出巢前の数10分間は「チッ チー」という可聴音が入り口付近から時々聞かれた。これらは山北町丹沢湖畔におけるヒナコウモリの出巢前から出巢時の状況(山口, 2000)と同じであった。冬眠中の個体を確認していないが、2005年3月10日に冬眠場所から可聴音が聞かれたことから、ここはヒナコウモリの集団冬眠場所であるものと考えられる。

この建物は地上高21mの煉瓦張りのコンクリートビルであった。冬眠場所は最上部の金属製のカバーの下で(図3)、4月18日の観察では3カ所から出入りしていた。駐車場や道路、民家、小学校などに囲まれ、出入りする側には高い建物がなかった。この建物のある位置の標高は約150mで、丹沢山地東側山麓の山間集落に位置し、周辺の山々は1000m以下であった。



図4. 最乗寺の洗面所の棚の上で休息していたヒナコウモリ(最乗寺提供).

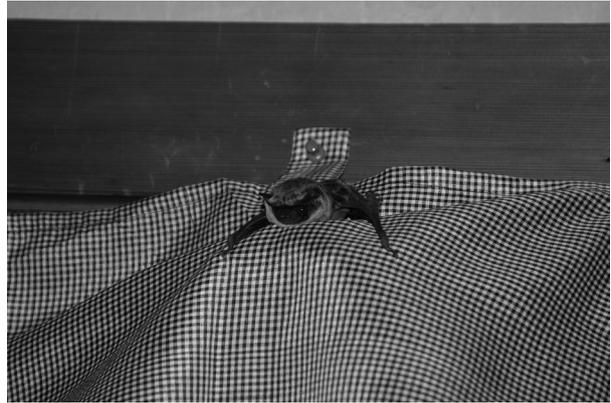


図5. 最乗寺の部屋内で見つかったヒナコウモリ(最乗寺提供).

②南足柄市の大雄山最乗寺

2004年4月15日の18:20に20数個体、17日の18:11に27個体のコウモリが、最乗寺の本殿の屋根付近から飛び出した。両日とも出巢前の数十分間は、屋根周辺で「チッ チー」という可聴音が時々聞こえており、出巢時に発する声はバットディテクターによると20kHz前後で「ピッ ピッ ピッ・・・」と聞き取れた。これらの行動や声は清川村の公共施設や丹沢湖畔の状況と同じであった。また、飛行時の体の大きさや翼の形からみても、これらはヒナコウモリに間違いのないものと思われる。出入りする場所は確認していないが、他の建物でも出巢を目撃したり、出巢前に可聴音を聞いたりしたので、本殿以外にも数カ所にねぐらがあるものと思われる。寺の建物内での確認は2例あり、ひとつは2004年6月29日に最乗寺の職員によって建物内の洗面所の棚の上で休息していた個体が撮影された(図4)。もうひとつは、



図6. 最乗寺とその周辺のスギ林.



図7. ヒナコウモリが出入りしていた日向薬師の壁面.

2004年12月6日に、部屋内のカーテンにぶら下がっている個体が寺の職員によって撮影された(図5)。職員によれば、これまでも建物内で飛んでいる個体が目撃されており、2005年1月16日にも確認されたとのことであった。また、2004年11月10日に寺の横を流れる沢にカスミ網を張ったところ、雄1個体(体重20.6g, 前腕長4.77cm)を捕獲した。以上のことから、最乗寺はヒナコウモリの集団冬眠場所と考えられる。

最乗寺は箱根山地の北東側山麓に位置し、標高は約330mであった。寺は木造で、30mを超えるスギの大木に囲まれていた(図6)。このスギ林は神奈川県天然記念物に指定されており、周辺はスギやヒノキの人工林地帯であった。

③伊勢原市の日向薬師

2004年12月5日の16:45、筆者のひとりである渡辺直子と鈴木一子氏、中野智敏氏が、建物の壁面の穴や隙間から出入りする数十頭を目撃し、筆者らは2005年1月4日の16:50頃から17:30にかけて、建物から出巢する数頭を確



図8. 日向薬師.

認した(図7)。12月5日は気温が20℃近くあり、1月4日は気象庁によると3月下旬から4月上旬の陽気であった。ヒナコウモリは冬眠中でも暖かい日は数頭が出巢することから(山口未発表)、これは冬眠中に覚醒し、活動したものと思われる。出巢時に発する声や付近を飛ぶときの状況は、清川村の公共施設や最乗寺、丹沢湖畔と同じであった。また、至近距離で見た飛行時の大きさや翼の形はヒナコウモリと同じだった。したがって、これらはヒナコウモリと判断され、ここは集団冬眠場所と考えられる。

日向薬師は丹沢山地の東南側の山麓に位置し、標高は約200mであった。寺は木造でスギやカシ類などの大木に囲まれていた(図8)。周辺はスギやヒノキの植林地が多く、南側には集落や谷戸地があり里山的な環境であった。

まとめ

神奈川県で見つかった冬眠集団は4ヵ所ともに人工建造物を利用しており、他県の3ヵ所のうち2ヵ所も同じように人工建造物であったことから(向山, 2002など)、ヒナコウモリは繁殖場所だけではなく、冬眠場所にも人工建造物をよく利用しているものと考えられる。

ヒナコウモリの冬眠集団は、国内では7ヵ所が知られているだけである。この内の4ヵ所は神奈川県で見つかることから(図1)、これらは貴重な冬眠集団と言える。今後はさらに冬眠集団の分布を調べると共に、これらの冬眠環境や本集団の繁殖場所などについて調べる必要がある。

謝辞

最乗寺の梶山健二氏と蓮田弘美氏にはヒナコウモリの情報を提供していただいた。また調査にご理解をいただき便宜を図ってくださった清川村の公共施設、最乗寺、日向薬師の方々に、心からお礼を申しあげる。

引用文献

- 阿部 永・石井信夫・金子之史・前田喜四雄・三浦慎悟・米田政明, 1994. 日本の哺乳類. 195pp. 東海大学出版会, 東京.
- 福井 大, 2001. 羊蹄山・ニセコ山系地区翼手類調査報告書(2) - 倶知安町百年の森周辺におけるヒナコウモリの季節的動態 - . 小樽市博物館紀要, 14:133-138.
- 環境省, 2002. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック - 1 哺乳類. 177pp. 自然環境研究センター.
- 前田喜四雄, 2002. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック - 1 哺乳類, pp.110-111. ヒナコウモリ.
- 向山 満, 1996. 青森におけるヒナコウモリの繁殖集団. 青森自然誌研究, 1:9-12.
- 向山 満, 2002. ヒナコウモリの冬眠場所. 日本哺乳類学会 2002 年度大会要旨, p132.
- 山口喜盛, 2000. 神奈川県西丹沢で越冬したヒナコウモリ. コウモリ通信, 8(2):13:4-6.

(山口(喜): 丹沢湖ビジターセンター,
曾根・山口(尚): 丹沢野生動物研究会,
渡辺: 東京農業大学野生動物学研究室)

